

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

保育所(園)名 : 富山市立豊田保育所

第三者評価機関名 : 社会福祉法人富山県社会福祉協議会

評価確定年月日 : 平成 29 年 10 月 30 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

【保育所環境】

平成 28 年 7 月に現在の場所に移転新築された。住宅街に立地し、派出所(警察)が隣接している。富山市が「環境未来都市」として掲げる「セーフ&環境スマートモデル街区」の一角にあり、隣に図書館豊田分館や公民館も建設中である。災害時の非常用電力供給・太陽光発電システムとコージェネシステムを備えており、地域に守られシンボリックな安全な保育所と言える。保育所内は、子どもたちが安全にのびのび過ごせるようにホール・コーナーなど、広々と設計されており、子どもたちの遊びや生活が潤いあるものとなっている。3 歳以上児が園庭へ出る場合は、2 階スペースに外履きが用意され階段で降りるが、柵がコンクリートで死角になり危ないこともある。新施設に甘んじることなく職員間で危険な場所を把握し、必ず職員を配置するなどして使用している。

【保育所内における公開保育】

園内研修の一環として、保育所内で公開保育を行い、違う視点からの保育の見直しをしている。自分では気づかないことへの指摘、環境の見直しなど、一緒に学び、一緒に成長しようという良い試みである。低年齢児クラスで 6 月に公開保育を実施し、反省や意見がまとめられている。生活や環境の見直しというテーマだが、どの意見も子どもを主体に考えており、保育士として子どもたちがいかに快適に楽しく生活できるか、子どもが主役であることを十分理解し研修を行っている。

【安全対策の構築に向けた協働取り組み】

新たな敷地へ移転・新築した園舎だが、その駐車場環境及び隣接県道の視界問題など、危険視する声が保護者から相次いで寄せられた。歩行する子どもを巻き込む事故、交通量の多い県道での車事故、どれも人命にかかわる恐れが高いことから、保育所と保護者会が協働し、『交通安全アンケート』を実施、集計し、詳細にまとめた報告書を作成した。要望書とともに富山市子育て支援課に提出し、問題提起を行っている。

◇ 改善を求められる点

【特色ある保育所の PR】

年間行事や地域とのふれあい事業、特別保育事業など多方面で保育事業を展開している。また、職員がチームを組み、懸命に取り組んでいるのは、素晴らしいことである。しかし、これらは内容に多少違いがあるものの、他の保育所でも実施されていることである。保育理念・方針をいかに達成できるか、そのためには何が大切か、豊田保育所は目的を達成するためにこのような保育実践を行っている、などの特色が見えてこない。職員で話し合い事業計画などへ盛り込み、実践に繋げていただきたい。そして広く内外へ発信することで豊田保育所の存在感を増していただきたい。

【プロセスに基づいた各種計画の作成】

中・長期計画作成に取り組み始めた姿勢が計画書から伺えるが、作成のプロセスの記録が残されていない。計画においては、職員はもちろん保護者及び関係機関、地域住民などの参画や意見の集約、計画への反映が求められる。保育の更なる充実、課題解決のほか、地域ニーズに基づいた新たな保育サービスの実施を含めたビジョンを明確にする必要がある。そして実現するための保育内容、組織体制(職員体制・人材育成など)、設備の整備などの現状を分析し、保育所の強みや独自性などを発見、再確認しながら課題を明らかにし、立案していくことが望まれる。

中・長期計画に基づいた年度計画が立案され、実施状況を評価し、再検討するプロセスについても、富山市は人事異動により数年で所長交代が見込まれるため、継続的に記録・保管されていくことに期待したい。

【自己評価の必要性】

保育所保育指針の中に、「保育士等の自己評価」が位置付けられている。「子どもの育ちを捉える視点」や、「自らの保育を捉える視点」などを踏まえ、職員に定期的な自己評価を実施していくことが望まれる。職員が自らの保育を振り返り、かつ他の職員から意見を聞く機会を持つことで、さらなる質や資質の向上に努めていくことに期待したい。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

- ・大きな行事については、職員の検討内容(特に、メリット及びデメリット)をわかりやすく表記したアンケートを全保護者へ実施し、集計結果を公表している。その結果に基づき各種行事内容を決定、保護者理解を得ながら実践している。
- ・富山市の保育士は中間年齢層が少ない現状にあるため、若手保育士の育成にも力を注いでいる。また職場では、職員がいきいきと仕事ができるよう、就業環境の調整にも心を配っている。職員に対するヒアリングからは、「『ありがとう』の言葉が行き交う温かい職場です。」といった声が聞かれた。
- ・保育所内で自主研修の機会を設けている。クラス毎に『公開保育』と題して、他保育士に実践状況を見てもらい、強みや改善案について助言を受けている。公開保育準備のためオーバーワークにならないように、ありのままの実践を『公開保育』としていくよう配慮している。

2 地域の住民や関係機関との連携

・地域の婦人方による『フラワーズ』というボランティアは、主に野菜作りなどの活動、地域のお茶指導ボランティアは、年長児へのお茶教室を開催している。家庭でなかなか出来なくなったことを実践する体験型保育活動は、地域住民ボランティアの活躍の場となっている。

・新保育舎になったことで定員が増え、様々な地域や環境の子どもが利用している。そんな中で、地域の要保護児童への対応や地域や家庭の子どもをめぐる諸問題に対し、職員は、専門家会議などへも積極的に参加し、関係機関と連携、協力して子ども・保護者支援に取り組んでいる。

・保育所は地域における社会的な役割を果たし、同時に地域の協力の中で子どもが育つためにも、地域資源を大切にしている。11月には、「勤労感謝の訪問」を行い、お世話になっている方や事業所へお手紙と手作りプレゼントを届け喜ばれている。

3 子どもの発達援助

・子どもの健康管理は、看護師が常勤で配置されている。マニュアルの充実、保育士の意識の高さが見られる。

・約1割のアレルギーを持つ子どもに対して、5回の食事チェックが実施され、事故が起きないように配慮されている。

・最近のグローバル化で外国の子どもたちも在籍している。信仰に合わせた食事にも細やかに対応されている。

・子どもに心地よい環境が十分整い、採光・換気・衛生面・やさしい色彩・広いコーナー・年齢にあった屋外活動の場が整っており、のびのびと生活している。

・保育士同士が「ありがとう」の言葉を発することで、職員間・子どもたちに温かい雰囲気をもたらしている。

4 子育て支援

・今年度「イクメンパパの保育参加」を企画実施している。また、祖父母参観や食事参加など、保育への理解や子育てに関心を持ってもらうように計画・実施している。その都度アンケートをとり、次回の計画に反映させている。

・親子サークルが年間30回開催され、富山市の栄養士、看護師、図書館司書、歯科衛生士、保健師などの助言や専門的な情報を提供している。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

昨年7月に移転改築され、広く明るい園舎や園庭など、とても恵まれた環境になりました。しかし危険箇所もあり、保護者会や地域の役員の方々の意見も取り入れながら、一つずつ解決に向けて取り組んできています。さらに恵まれた環境だと安易に過ごすのではなく、それを上手く活かし、子ども達がより潤いのある保育所生活を送ることが出来るよう話し合い、工夫に努めているところでもあります。

そして今回、第三者評価の受審を機会に、職員全員で保育理念や目標、指針について再度話し合い、保育所保育についての共通理解を深めたり、自分の保育の振り返りをしたりして、保育士の資質向上のための有意義な時間を持つことが出来ました。

豊田校区は住宅が多く、昔からの住宅に加えて、若い核家族の住宅も増えてきているのが特徴です。そうした地域性の中で、豊田保育所は地域の方々や新米パパママに、もっと保育所のことを知っていただき、子ども達の成長に力を貸していただけるような関係づくりを目指していくことの大切さやそのための具体的ヒントを今回いただいたように思います。それを実現に繋げていくには、時間や準備が必要になると思いますが、まずは評価していただいた結果を真摯に受け止め、職員に継承し、今後の保育現場で活かされていくよう努めていきたいと思っています。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1)基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	B
(2)中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	A
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3)組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	B
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	B
(4)守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5)情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	B
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6)安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7)人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8)経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	A
(9)管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	A

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1)地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	B
(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助

(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	A
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	B
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	A
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	B
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1)入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2)多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	A
(3)地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	B
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	-